

Hope for Japan's key projects

日本の重要科学プロジェクトに予算復活の望み

David Cyranoski

Nature Vol. 462(835)/17 December 2009

今年9月、日本で50年ぶりの政権交代が起こり、多くの日本国民は、民主党鳩山新政権に、国の再生を期待した。しかしその後、新政権が打ち出した政策により、研究者たちは、予算をめぐるジェットコースターのようなめまぐるしい変化に翻弄^{ほんろう}されている。内閣府に設置され、鳩山由紀夫首相がともに議長を務める2つの機関が、11月から12月の数週間に、主要科学プロジェクトの財政的先行きについて、根本的に異なる提言を行ったからだ。

官僚組織の“脂肪”をそぎ落とすことを目的として9月に発足した行政刷新会議は、次世代スーパーコンピューター開発、大型放射光施設 SPring-8（兵庫県佐用町）、地球科学研究を含む多くの重要科学プロジェクトについて、予算の大幅削減を提言した。しかし、こうした予算削減に対して、科学者から激しい抗議の声が上がった（前掲の12月3日号の記事参照）。こうした中で、12月9日、日本の科学技術政策の最高決定機関である総合科学技術会議（CSTP）が、これらの事業やその他多くの科学事業に対する支援を継続すべきだという、行政刷新会議と正反対の意見を示したのだ。

例えば、SPring-8や博士課程研究プログラムの強化を目的としたグローバルCOEプログラムについては、予算の1/3以上の縮減が提言されていたが、総合科学技術会議は、「優先して資源を配分すべきもの」とした。また、完全廃止の可能性もあった次世代スーパーコンピューターについても、支援すべきだとした。

日本政府の政策決定では、通常、舞台

裏で官僚によって事前に調整され、そのコンセンサスが発表されてきた。今回のように明らかに矛盾する状況は珍しく、研究者は当惑している。スーパーコンピューター事業の渡辺貞プロジェクトリーダーは、「政策決定過程が不透明で、非常に不安です」と語る。

来年度予算の政府案は12月後半に決定されるが、鳩山首相は、総合科学技術会議の提言を「貴重な意見」といい、「予算に十分に反映できるように努力していきたい」と語った。多くの人々は、鳩山首相が、予算削減提案に対する激しい抗議にあって、総合科学技術会議の提言を受け入れる方向に傾いているのではないかと考えている。科学政策を専門とする政策研究大学院大学（東京都）の角南篤准教授も、「今の時点では何もいえませんが、我が国の首脳が問題を認識したことは間違いなくと思います」と話す。

行政刷新会議は、外部から十分な情報を入手せずに、原則として担当官僚が1時間で事業仕分けチームにプロジェクト内容を説明しただけで予算削減を勧告したため、科学者の強い批判を受けた。なお、行政刷新会議は、多くの科学者の参加を得て、スーパーコンピューター事業に関する公開討論会を実施する計画であることが、日本のメディアによって報じられている。

一方で研究者は、大事なプロジェクトが中止の危機に瀕したことで、官僚や外部評価者はもちろんのこと、一般国民にプロジェクトの正当性を示す必要があることに気がついた。実際、スーパーコンピュー



科学者は、鳩山由紀夫首相が科学技術予算削減の提案を受け入れないことを願っている。

ター事業のリーダーたちはウェブサイト上で、事業の重要性に関する「よくある質問と回答」を掲載した。そこには「次世代スパコンの優れた点を説明して下さい」といった項目も含まれている。

渡辺プロジェクトリーダーは、スーパーコンピューター事業に国民の関心を引きつける長期戦略がまだできていない、と認める。しかし、スーパーコンピューターが、ナノ科学、生命科学、環境科学など日本の主要な研究分野において大きな役割を果たす点は強調したいと考えている。「我々は、この点こそを人々に伝えなければならないのです」。

角南准教授も、日本の研究者は、科学予算には国民の支持が得られるのが当たり前だと思っはならないと考えており、「たとえスーパーコンピューターとSPring-8の予算が小幅な減額ですんだとしても、科学者ももっと国民と向き合っていく必要があります」と語っている。（菊川要 訳） ■